

アフリカ地域全体で 立ち上がる

2001年、NEPADは「アフリカ開発のための新パートナーシップ (New Partnership for Africa's Development)」として、誕生しました。目指したのは、アフリカ大陸の国々が丸となってパートナーシップを組み、貧困撲滅、持続可能な成長と開発、政治経済のグローバル化、女性の社会進出などを目指していくこと。国際社会の支援だけに依存するのではなく、民間資金も活用しながら自力で発展していくという動きです。

そして今、NEPADでアフリカの指導者たちが今後のビジョンと行動を検討しているのが「AGENDA 2063」です。50年後を見据えた開発目標ですが、これは「計画」ではありません。そんなに先の未来がどうなっているか、誰も予想できるはずがない。しかし、私たちはこれまでの50年に学ぶことはできるはず、学ぶべきだと考えています。

アフリカは多くの国が独立し始めた1960年代から、それぞれの国で「政治的自立」に力を注ぎ、ある程度の成果を得ました。それを踏まえ、これからの50年で目指すべきは「政治経済の変革」です。

商品の付加価値の向上、産業化を進め、包括的な成長を遂げていかなければなりません。今年中には、「AGENDA 2063」はアフリカ連合(AU)のサミットで正式に採択される見込みです。NEPADはAUの開発部門として、国レベル、地域レベルで、これを実現していく役割を担っていくのです。

かつては“暗黒大陸”ともいわれたアフリカ。
その地域が今、目覚ましい経済成長を遂げている。
さらなる発展のために、彼らはどのような道を歩むのか。
アフリカの地域統合を支える組織、NEPAD*の
イブラヒム・アサネ・マヤキ計画調整庁長官に聞いた。

* アフリカ開発のための新パートナーシップ (New Partnership for Africa's Development) の略称。

特集

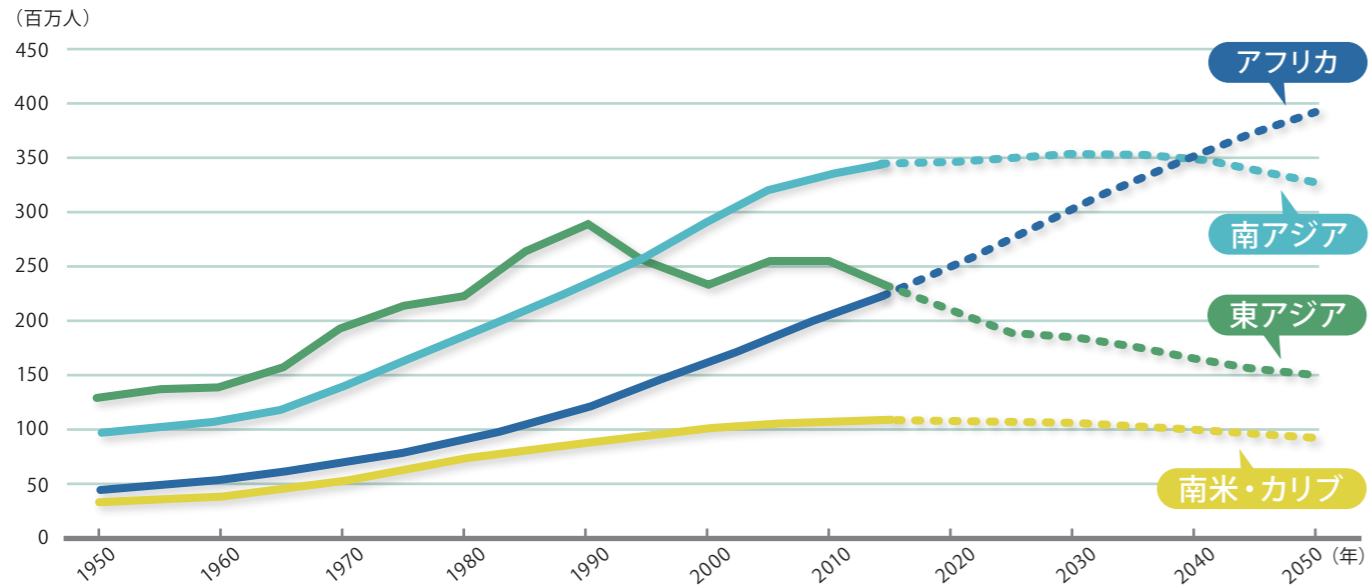
動く、アフリカ

アフリカのポテンシャルとは？

若者（15～24歳）の人口が増える！

出典：JICA「アフリカの若者に明るい未来を TICAD Vへの報告書」

■ 若年層の人口変化

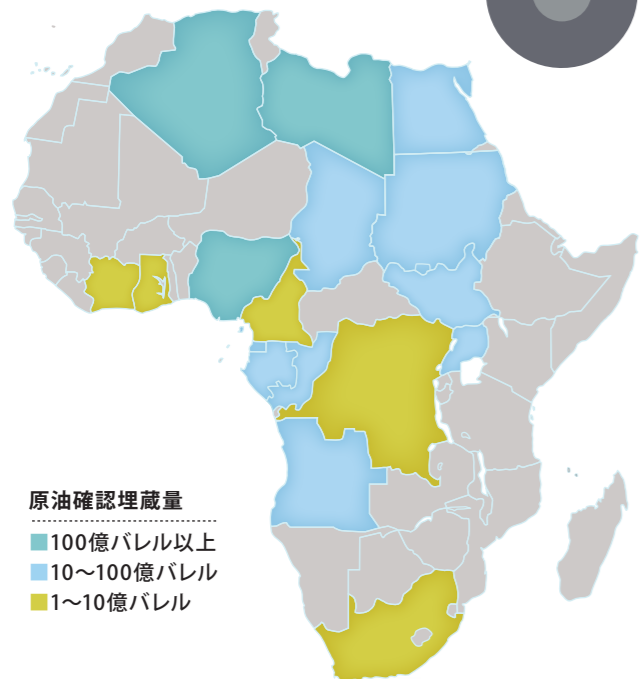
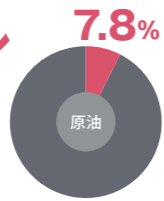


天然資源の宝庫！

出典：JOGMECのデータを基にJICAで作成

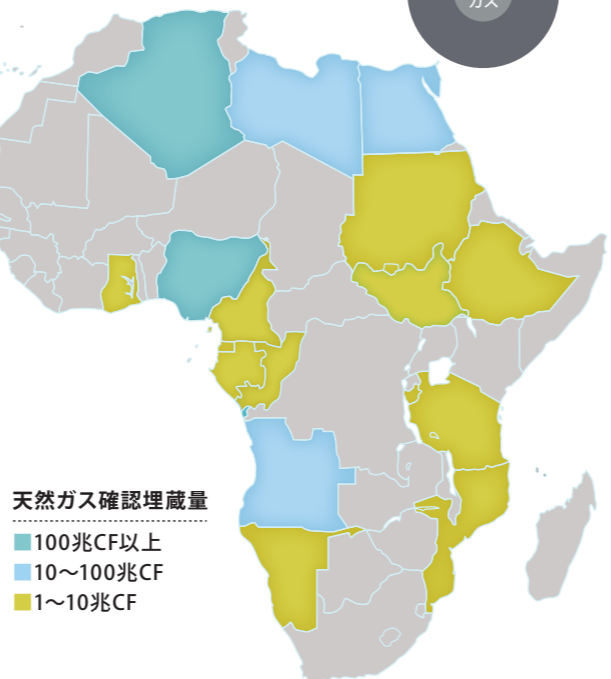
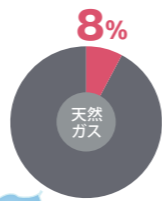
■ 原油確認埋蔵量 (2012)

アフリカ | **1,300億バレル** (7.8%)
世界 | 1兆6,680億バレル



■ 天然ガス確認埋蔵量 (2012)

アフリカ | **14.5兆m³** (8%)
世界 | 187.3兆m³



未来の成長に向けて、今の課題と向き合う

「AGENDA 2063」を実行する上で、アフリカはさまざまな壁に直面しています。一つが人口構造の変化です。近年、アフリカでは若年層の人口増加が顕著ですが、これから、さらに加速化すると予想されています。そこで問題となっているのが雇用の確保であり、そのためには産業の活性化が必要となります。そして2つ目は、天然資源のガバナンスです。ア



タンザニアでは、日本ならではの5Sを取り入れた病院運営を日本人専門家が指導

© Takeshi Kuno

リカは天然資源の宝庫といわれていますが、それをどのように産業の活性化につなげていくか。国として、地域として、きちんと政策をつくらなければなりません。2014年は、アフリカにとって苦難の年でした。その原因が、日本でも連日報道されていたエボラ出血熱の流行です。西アフリカを中心に混乱に見舞われ、今もお、その影響は続いています。ここで私たちが学んだのは、繰り返しになりますが、アフリカが目指すべき成長は包括的でなけれ



ガーナでエボラ出血熱の感染防止に向けた啓発活動を行う青年海外協力隊

© Takeshi Kuno

特集 動く、アフリカ

ばならないということです。例えば、感染国の一つのシエラレオネは、近年高い成長率でその名を轟かせていましたが、エボラ出血熱の流行を早期に抑えることができず、それが成長の足を引っ張りました。それは、その成長が公共衛生システムへの投資につながっていないからです。それが明らかになった今、本場の意味での成長を遂げるためには、人的資本への投資が必要不可欠なのです。さらに、シエラレオネ、リベリアなどの紛争終結国はまだ国としてせいぜい弱な部分が多くあるため、このような不測の事態に備えて、制度をきちんと構築しなければなりません。国境を超えて広がる感染症は、言うまでもなく、国単位で解決できるものではありません。アフリカ全体として、広域で戦略的に対

策を取っていかねばなりません。今回は西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)が早い段階から調整役を買って出て、現場への世界保健機関(WHO)の介入を後押ししました。地域が一体となって協力体制に出たことで、感染国の広がりを抑えることができたとも言えます。公共衛生システムは、これからアフリカで慎重に精査されなければなりません。政府レベルでの制度構築はもちろんですが、住民レベルでの啓発活動も重要だと考えています。アフリカの成長の可能性は無限大です。私は地域を取りまとめるNEPADの長官として、今後も公共衛生システムの充実化にはさらに注意を払い、改善を図ってきたいと考えています。



© Shinichi Kuno

イブラヒム・アサネ・マヤキ

1951年ニジェール出身。97～2000年までニジェール首相を務めた後、教育や保健医療の政策に特化したシンクタンクを設立。2009年からNEPAD計画調整庁長官。